

東京学芸大学附属図書館報

# ライぶらり

TOKYO GAKUGEI UNIVERSITY LIBRARY NEWS

## ようこそ学芸大学図書館へ



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

大学生活では図書館は欠かせないものです。まずはこの新入生特集号で図書館を身近に感じてください。

東京学芸大学附属図書館では、約40万冊の蔵書と各種データベースを取り揃えてみなさんの利用をお待ちしています。



### [特集] 新入生

- ◆ようこそ学芸大学図書館へ 1
- ◆図書館ですぐず知的で贅沢な時間(山口源治郎) 2
- ◆先輩から新入生へのメッセージ(丸山貴士/飯島貴之) 3
- ◆大学図書館を使い倒せ! 4~5
- ◆こんな時どうする...?!大学図書館使いこなしガイド 6
- ◆自著を語る(小泉武栄/田中一晃) 7
- ◆“大学での学び方” オススメ本 8

Vol.37 [No.1]

2008.4

# 図書館ですごく知的で贅沢な時間 — 図書館をしゃぶりつくせ —



山口源治郎

私が所属する生涯学習教室の場合、例年1月半ばに卒業論文の提出日がやってくる。今年は1月15日であった。毎年この日は、学生がちゃんと提出してくれるか気になり、気持ちが落ち着かない。指定の時間になると4年生や?年生が一人二人と現れる。晴れ晴れとした顔である。卒論の中身はさておき、まずは“お疲れさん”と声を掛けたくなる。

‘何でこんな面倒なものを書かなきゃ卒業させないのか’ 学生さんにとって卒論とはそんなやっかいな代物かも知れない。しかし、金儲けにも、就職にも、恋愛にも役に立たないが、気になる問題や興味惹かれるテーマについて、じっくり考える贅沢な時間が、一生に一度くらいあったっていいではないか。それが大学だ。卒論はその意味で最も大学らしい代物だと思う。晴れ晴れとした顔は、そんな充実した時間を過ごした者たちの表情だ。

卒論には教科書も正解もない。高校までの学習や受験勉強とは異なり、自分で問題を発見し、調べ、考え、回答を提示する。しかも論文という形式でまとめ上げなければならない。これにはかなりの時間とエネルギーをつぎ込む。だから自分自身がおもしろいと思えるテーマでない

と、途中でやる気が失せ、挫折してしまう。ところがやっかいなことにはじめの一步であるこのテーマというやつがなかなか決まらない。自分が何に興味があるのかがよく分からないのだ。

そんな時には、小さなメモ帳をポケットに入れて、図書館に出かけるのもいいかもしれない。図書館業界の専門用語にブラウジング (browsing) という言葉がある。本来の意味は家畜が若葉を気ままに喰うことのようなのだが、転じて、書架の本や雑誌などを気の向くまま読んだりすることを指す。ブラウジングしていると、自分でも気づかなかつた魅力的なテーマに出会ったりする。出会いや発見があったらメモしておこう。これが意外と卒論のテーマに発展するかも知れない。どうでもいいくだらない発見もあるから結構おもしろい。これも図書館の楽しみ方の一つだ。図書館はそんな知的で贅沢な時間が楽しめる空間だ。

もちろんブラブラするだけが図書館ではない。現代の大学図書館は、自館所蔵の情報はもちろん国内外の膨大な文献や情報世界へ漕ぎ出す港 (ポータル) へと進化しつつある。もし卒論のテーマやレポートの課題が決まったら、図書館員という文献・情報の世界のナビゲータに

相談してみよう。古今東西の文献、電子ジャーナル、各種データベースの利用、他の図書館からの文献やコピーの取り寄せ、他の大学図書館の利用など、君の知的世界は一気に広がるだろう。試験勉強と居眠りだけに図書館を使うのはもったいない。図書館をしゃぶりつくせ、そして図書館で贅沢な時間を楽しめ。これが大学を数倍楽しむ方法だ。

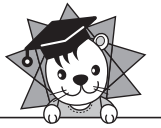
(やまぐち・げんじろう)

総合教育科学系教授)



# essay

アクセスしよう!



丸山 貴士

ご入学おめでとうございます。私は2000年に入学し、K類多言語多文化専攻で中国語を学びました。その後修士課程へ進学し、計七年を学芸大学で過ごしました。私の入学した頃は、新生生のパソコン必携化も始まっておらず、情報へアクセスすることの大事さを、今ほど実感していなかったように思います。新生生の皆さんの学年では、パソコンでメールもネットも出来ないという方は、恐らく多くはないでしょう。私たちの一、二世代上の代までは、古い貴重な本を持っているとか、全何百冊もある全集を利用できるといった「情報へのアクセス権」は、一部の限られた場、限られた人々にしか与えられていませんでした。もちろん今でもそうした事はありますが、現在では、何百冊もの全集がデータベース化され、家庭用のパソコ

## ●先輩から新生生へのメッセージ●

ンで一字一句検索できたり、遠く離れた場所にある図書館の資料を検索し、それを電子データとして閲覧できたりと、以前ではアクセスすることすら困難だった情報が、一瞬で目の前に現れるという環境が整いつつあるのです。皆さんはこれから、試験、レポート、実習、論文等々、「情報」の収集・整理をしなければならない場面に多々出くわすことでしょう。そんな時は迷わず図書館へ行きましょう。皆さんの必要とする情報への玄関口となるのが、学芸大学の図書館です。たとえ必要な資料の所蔵がなくても、一階受付にお願いすれば、国内のみならず海外からも取り寄せることが出来ます。どこへ行けば目当ての情報に辿り着けるか、丁寧に教えてくれます。図書館(=情報)は使われてこそ価値があります。学食や生協と同じ様に、図書館を最大限活用しましょう。ご健闘お祈り申し上げます。

(まるやま・たかし 平成16年3月K類多言語多文化専攻卒業・平成19年3月教育学研究科総合教育開発専攻修了)

## 図書館と私



飯島 貴之

「これからどーする?」「図書館行こーぜ!」これが私と友人との間で交わされる日常会話だ。新生生の皆さん、ご入学おめでとうございます。理科を専攻する私にとって図書館の利用はヘヴィーローテーション。というか学校に来た日に最も長い時間を過ごす場所といっても過言ではありません。図書館を訪れたら常に必ず知り合いがいる、そんな私のほうから学芸大学の図書館について紹介させていただきたいと思います。

まず大学に入学した皆さんは、高校時と比べて必然的に図書館を利用する頻度が多くなると思われます。授業の合間に時間をつぶす場所として、課題として出されたレポートの調べ物をする場所として、または単純にパソコンや勉強や読書をする

場所として。図書館は実に多くの利用法を提供してくれます。しかし最も特筆すべき点は開館日の多さでしょう。開館時間は短縮されますが土・日も利用でき、教育実習があるため夏休みもほぼ毎日利用できる(各出版社の教科書がそろっているのも私もこのときはおおいに助かりました)。そのような図書館を持った大学というのはそうあるものではないのです。さらにこの図書館はそれまでの図書館という概念に縛られません。図書館主催の各種展示会や講演会、学生によるランチタイムコンサート、満を持して生まれ変わった清潔感あふれるトイレ…。進化の歩をやめず、私たちにより良い空間を提供しようとひたすらまい進する…。そんな学芸大学図書館が私は大好きです。

これを読んでいる新生生のみなさん、あなたも友人を誘ってみたいかがですか?「図書館行こーぜ!」と。

(いいじま・たかゆき F類自然環境科学専攻4年生)



# 大学図書館

# を使い倒せ!

## 人文・社会科学コーナー

この棚には、地図の左から、哲学、心理学、社会科学、文学などの本が並んでいる。哲学コーナーには、高校の倫理の時間に名前を無茶覚えされるだけのちょっと可哀想な扱いをされているソクラテスやアリストテレスなどの西洋古典も置いてある。いっぺん読んで挫折しておくのもおもしろい。社会科学って何だという人もおもしろい。法学、政治学、経済学、経営学、社会学などをまとめて社会科学と呼んでいるので、覚えておくと役に立つだろう。教育問題では社会科学や哲学、文学の観点からも本が書かれているので、経済とか法律とか興味ないという人もぜひこの棚を眺めてみよう。

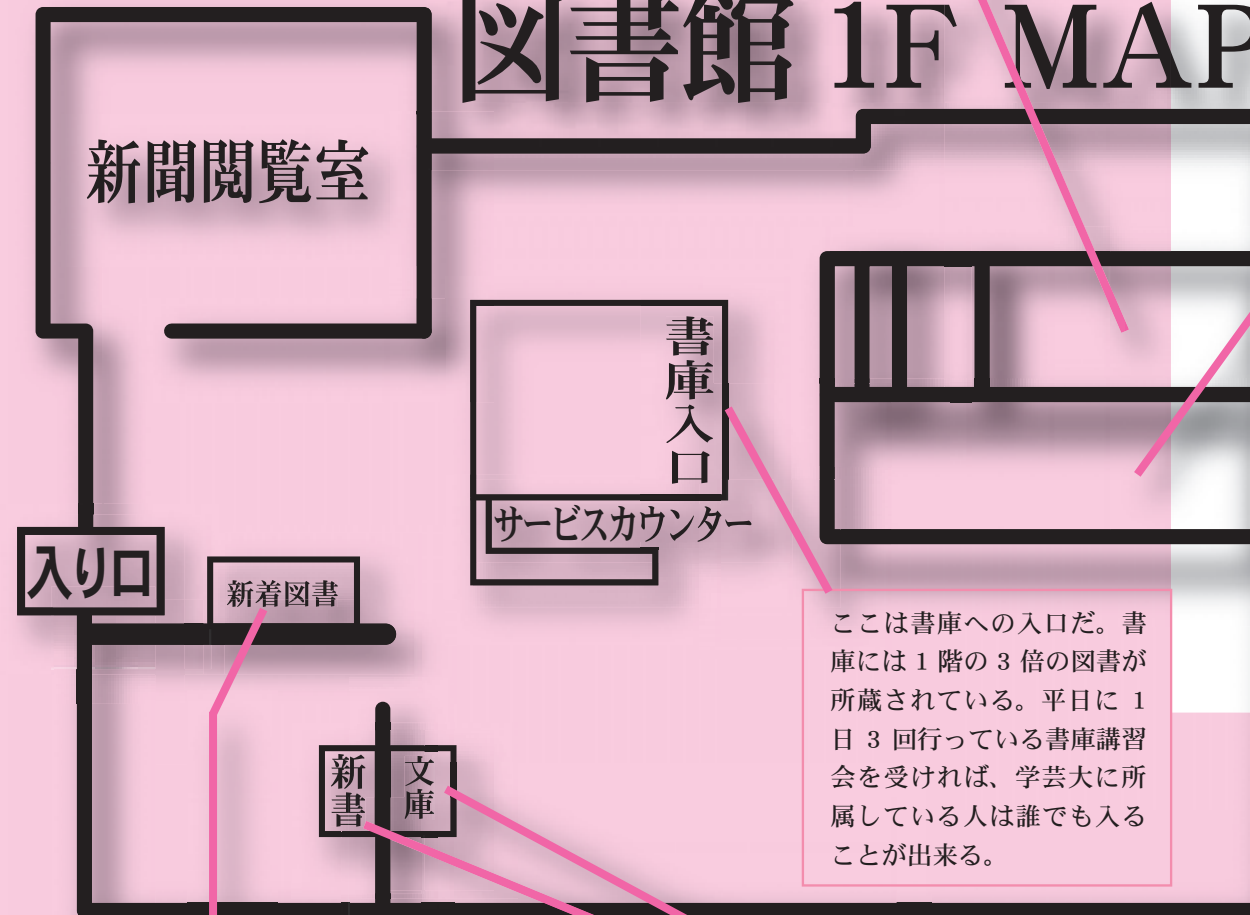
大学図書館って、どんなところだろう。小難しそうな本をかめっ面で読むところ? そのとおり。研究者も学生も小難しそうな本を読んでいる。でも、実は内心にやにやにしている。自分の好きな本を読んでいるのだから、楽しくてたまらないに決まっている。もちろん難しい本にぶつかって時々苦しいこともあるだろうけど、大変だからこそ楽しいのだ。その証拠に、読み終わると皆澄まし顔で出て行くが、どこことなく満足気だ。楽しくなかったら、誰が好き好んで難しい本なんかわざわざ読むだろう。

その彼らが(にやにやしな)ながら読んでいるのが、小難しそうな「学術書」というものだ。大学図書館には高校の図書室や町の図書館のように古今東西の小説もそれなりに置いてあるけど、メインはこの小難しそうな「学術書」だ。この学術書というのが、大学で学ぶのには欠かせない。高校までの学習と違い、大学では自分で作った問題に自分で答えることができる。でもいきなり問題を作れなんて言われても、そんなの無理に決まっている。そこで学術書が役に立つ。学術書は研究者の先生たちが、自分で問題を立て、それに必死になって答えている本だからだ。教育問題、環境問題、人権問題、なんでも揃っている。そこで最初は自分の好奇心の赴くままに学術書を読み漁って、自分の問題を探してみればいい。心配しなくても、学術書の中には入門向きな本もあるし、新書や文庫で手軽に読めるものもある。

**是非** 図書館をふらふらと歩き回り、おもしろそうな(小難しそうな)本を見つけたら、手にとってしかめっ面で、内心にやにやしな)ながら読んでみて欲しい。

このページでは図書館1階の地図を見ながら、どうやってふらふらしたらおもしろそうな本を見つけれられるかをアドバイスしよう。

## 図書館 1F MAP



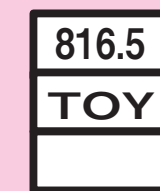
## 教育・自然科学・芸術コーナー

この棚は、一番左が皆さんお待ちかね教育コーナー、次に自然科学、で、最後に芸術となっている。自然科学ってなに? というひとは、高校までの理系科目を思い浮かべてくれればいい。物理とか化学とか。もちろん学ぶ深さは全く異なっているけども。そして一番右が芸術・スポーツ関係だ。美術、音楽、演劇、写真、デザイン、建築、漫画、陸上、サッカー、ハンドボールとりあえずなんでも揃っている。文化財保存、美術品修復関係もここにおいてあるので、興味のある人は覗いてみるといい。素人目にも面白そうな本がけっこうある。

ここは書庫への入口だ。書庫には1階の3倍の図書が所蔵されている。平日に1日3回行っている書庫講習会を受ければ、学芸大に所属している人は誰でも入ることが出来る。

## セイキュウキゴウって何?

「セイキュウキゴウを教えてください。」って図書館員に聞かれることがあるかもしれない。何だよそれ。知らないよとか言わないで、別に難しくないんで、ここはひとつ覚えておきたい。知っていると便利だ。漢字で書くと、請求記号。勘のいい人ならすでにお分かりのように請求つまり、本を探すときに使う記号だ。



左の図を見て欲しい。図書館にある図書には背に左のようなシールが付いている。これが請求記号だ。インターネット上の附属図書館のサイトから本を探すと、この請求記号が出てくるので、それを見て実際の本棚を探すことになる。本はこの請求記号の順に並んでいるからだ。実際にどうやって探すのかは、p.6に紹介されている TIPS for LIBRARY ②④を読もう。ここではこの記号にどんな意味があるのかをちょっとだけ解説したい。この数字は分野によって分かれている。100番台が哲学関係、290番台が地理関係とか。つまり関係の深い分野の本は近い番号が付けられて、近くに並んでいる。なのでひとつ面白い本を見つけたら、その近くを見れば芋づる式に面白い本が見つかるというわけ。ん?二段目も知りたい?二段目は著者の名前の頭文字だ。三段目?気にしない気にしない。

## 新着図書

新しく図書館に入ってきた本は、まずここに集まる。図書館には古い本しかないなんて思っではいけない。実は毎月新しい本を買っているのだ。ここで新刊をチェックして、新鮮な情報をどんどん取り入れよう!

## 文庫・新書

いくつかの出版社の文庫と岩波・中公新書はこの棚に置いてある。新書のなかには、大学の先生たちが素人にもわかりやすいように専門分野の魅力を伝えてくれているものも多いから、気になるものから手にとって目次を見てみよう。

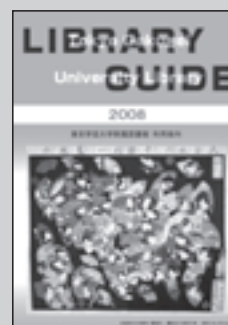
# GO TO YOUR LIBRARY

# こんな時どうする…?! 大学図書館使いこなしガイド

附属図書館では、みなさんに大学図書館を使いこなしていただくために、様々なガイドを用意しています。

## Q. 図書館では何冊本が借りられるの？ どんな資料がどこにあるの？

- .....
- A. こんなときは、「LIBRARY GUIDE」を手に取りましょう。  
館内マップも掲載しています。  
(1F 正面入り口、サービスカウンターにあります。)



## Q. 読みたい資料が図書館にあるかどうか知りたいけれど、どうやって調べたらいいの？

- .....
- A. こんなときは「TIPS for LIBRARY」を手に取りましょう。①～⑨まであります。基礎知識から応用テクニックまで網羅したスグレモノです。  
(1F サービスカウンター左脇にあります。)



## Q. 図書館活用について先生や先輩のアドバイスなどがあれば知りたいのだけれど・・・？

- .....
- A. 図書館では広報誌「ライぶらり」を手に取りましょう。先生や先輩からのメッセージや図書館活用の耳よりな情報をキャッチしましょう。  
過去の記事はホームページで読むことができます。  
(1F 正面入り口、サービスカウンターにあります。)



## Q. 図書館のガイドって、ネットでは見られないの？

- .....
- A. もちろん、全てインターネットで見ることができます。  
ここでご紹介したもの以外にも様々な機能や内容を用意しています。こちらもしっかり活用しましょう。
- ・ PC版 <https://library.u-gakugei.ac.jp/>
  - ・ 携帯対応版 <https://library.u-gakugei.ac.jp/i/>



## 『自然を読み解く山歩き』

小泉 武栄

小泉武栄著  
JTBパブリッシング  
2007年4月

図書館1F開架  
291/JTB



愛知県豊橋市の郊外には、海拔70mの低地にもかかわらず、モウセンゴケなどの亜高山の植物が生育する湿原がある（葦毛湿原）。自然界にはこのような不思議な場所や現象がいろいろあり、その原因については植物も地形・地質もあわせて考えることによって初めて解答が可能である。

本書は、自然の謎とその答を分かりやすく紹介したもので、いわば自然を3倍楽しむためのガイドブックである。扱った場所は、葦毛湿原や武蔵野台地などの低地から、高尾山、尾瀬ヶ原のような中低山、さらには飯豊山や剣岳などの高山にまで及ぶ。それぞれに地形図がついていて観察ポイントを知ることができ、サイズも持ち歩きできるよう、B6版と小さくした。

世の中に登山をする人はたくさんいるが、山の自然を理解しながら登る人は少ない。せっかくお金と時間を使って登るのなら、もっと知的で楽しい登山をしてもらいたい。私はそう考えてこの本を書いた。よくあるガイドブックとは違って、全編、「なぜ」のオンパレードである。知的好奇心の旺盛な人向きだが、普通の人が読んで驚くこと請け合いである。

（こいずみ・たけえい 人文社会科学系教授）

# 自著 を 語る

小学校に、憧れと大きな期待を抱いて入学してくる子どもたち。しかし、しばらくすると、その目から輝きが失われていく子どもも少なくない。子どもたちは、「決められた場所で、決められた時間、決められた内容に」取り組まなければならない小学校生活と、これまでの幼稚園・保育園生活との大きな違い（段差）にとまどいを感じ、次第にストレスを溜めていくようになる。これが、現在の教育現場が抱える課題の一つ「小1プロブレム」である。

同じ敷地内に隣接し、創立以来、運営面、研究面で密接な関係にある東京学芸大学附属竹早小学校と附属幼稚園竹早園舎では、早くからこの問題に着目し、幼小8年間の教育の連携を推進する中で、子どもたちにとってより望ましい幼小接続期の在り方を研究してきた。

小誌は、長年にわたる連携研究の中で行われてきた実践やそこで見てきたもの、感じたことをまとめたものである。教育関係者のみならず広く一般の方々にもお読みいただき、子育てのヒントにしていいただければ幸いである。

（たなか・かずあき 附属幼稚園竹早園舎副園長／附属竹早小学校副校長）

田中 一晃

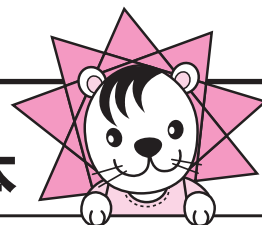


東京学芸大学附属  
竹早小学校・幼稚園著  
東洋館出版社  
2007年2月

図書館1F開架  
376.2136/TOK

『できることからはじめよう! 小1プロブレム? 学校プロブレム?』





## “大学での学び方” オススメ本

大学で学ぶことは、高校までの学習とは違います。ここでは、大学で学ぶことに関する内容のオススメ本を紹介します。紹介する本は全て図書館で所蔵していて、“図書館1階開架”に配架されています。ぜひ手にとってみてください。

書名	著者等	請求記号
内容紹介		

知のナビゲーター：情報と知識の海 - 現代を航海するための	中澤務ほか編	377.15/NAK
-------------------------------	--------	------------

大学の授業を受ける上で必要となる様々な学びのスキルを、実例を交えながら丁寧に解説している。本書を読むことで、大学で学ぶというのはどういうことかということも、イメージできるのでは。特に、ノートの取り方(第1章 ノートテイキング)は、入学後すぐに活用できる。

アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門	佐藤望編著	377.9/KEI
---------------------------	-------	-----------

この本には、「大学の講義では何が求められているのか」「講義の聞き方、ノートの取り方」「図書館利用法」「資料の読み込み方、情報整理法」「レポート等のまとめ方」が実例を交えて簡潔に述べられている。

大学生の学び・入門：大学での勉強は役に立つ！	溝上慎一著	377.9/MIZ
------------------------	-------	-----------

勉強のための直接的なテクニック(ノートの取り方等)についてではなく、大学で学ぶにはどのような認識を持ち、いかに行動するかを述べた本。また、参考図書を紹介と学生のレポートがあり、本書で述べられた「大学における学び」をさらに深めることが出来る。

知のツールボックス：新入生援助(フレッシュマンおたすけ)集	専修大学出版 企画委員会編	377.9/SEN
-------------------------------	------------------	-----------

「大学での勉強はこうなっている」ノートのとり方、資料の集め方、議論の方法など。

大学での学び方：「思考」のレッスン	東谷 護著	816.5/TOY
-------------------	-------	-----------

私の考えを理解してほしい。そう思っているひとに役立つ本。高校までの「お勉強」と違い、大学では自ら「問い」を立て、それに対する「答え」を自分で考え、他人に示さなくてはならない。その方法と醍醐味を、わかりやすい言葉で解説している。

しらべる力をそだてる授業！	赤木かん子 塩谷京子著	017.2/AKA
---------------	----------------	-----------

小学生の調べ学習の指導をする教員用だが、小学生向けの内容がなかなかあなどれず、大学新入生にもオススメ。レポートの書き方の基礎の基礎がわかる本。

他にもこんなオススメ本があります！

勉強のやり方がわかる。	AERA MOOK	002.7/ASA
大学図書館がゼロからわかる本：学生のための図書館活用法	大野友和編	017.7/ONO
大学生になるきみへ：知的空間入門	中山 茂著	377/NAK
大学基礎講座：これから大学で学ぶ人におくる「大学では教えてくれないこと」	藤田哲也編著	377.15/FUJ

[編集発行] 東京学芸大学附属図書館

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 TEL 042-329-7223 / FAX 042-329-7226

● URL <http://library.u-gakugei.ac.jp/> ●携帯版 URL <http://library.u-gakugei.ac.jp/i/>

